

第一 一回 楽々俳句会(ちば)

令和六年九月十二日(木) 晴 吟行なし

会場 支援センター九階 十時集合 兼題「吾亦紅」 投句三句

久 武 久

1 3 御朱印の太き墨書や秋の風
窓辺にて切なく歌う吾亦紅
暮合のひとぼちの吾亦紅
宣子 静代 武彦

2 無人駅牛乳瓶の吾亦紅
成子

1 2 亡き母の小袖彩る吾亦紅
1 1 単線の窓より手折る吾亦紅
成子

5 吾亦紅江戸へ十里の一里塚
久登

3 ストロ―で暑さ一気に掻き混ぜり
1 公園の吾亦紅残しボランテア
今日子 育子

1 繋がらぬ会話の続く猛暑かな
信雄 今日子

武 増え老いと共に吾亦紅
早起し寄せる高潮船もやう
利太郎 恵美子

久 巡礼路しるべ指差す吾亦紅
巡礼の路しるべ指す吾亦紅
洋子

久 風に揺れ小競り合いの吾亦紅
2 1 秋刀魚焼く片側はまだ海の色
洋子

1 1 吾亦紅あずさ二号に忘れ物
使わねば衰える声大夕立
武彦 育子

4 吾亦紅自在に自撮る山ガール
3 吾亦紅茶室の壁に奥ゆかし
弘子 恵美子

一輪挿し茶室の壁の吾亦紅
2 押し上ぐる刑部岬の土用波
久登 豊隆

2 寝付けぬ夜友を偲びて濁り酒
2 人生の移り行く日々吾亦紅
静代

1 即売所梨売る人の割烹着 洋子
1 茗荷汁知るや赤胴鈴之助 久登
1 風に飛び此処が住みかよ曼殊沙華 豊隆
1 宅配の幟立ちけり梨街道 幟は五月 粹歩
梨園や宅配の旗道沿いに 梨街道は固有名詞

1 吾亦紅深き樹間に紛れり 育子
1 ルージェ引き仕上るお洒落今朝の秋 宣子

1 秋の浜次の白波順を待つ 利太郎
1 秋茄子の色見比べり朝の市 粹歩

1 虫時雨ゲリラ豪雨の予感あり 成子
1 草にまじり見え隠れする吾亦紅 ミチ子

1 友の居て月遠ざくる吾亦紅 今日子
友の居て月日遠ざく吾亦紅

1 彼の空の母を仰ぐや吾亦紅 武彦
1 吾亦紅色変たる道しるべ 信雄

1 吾亦紅突く児の指に従へり 恵美子
1 夕日差す谷地朱に染めし吾亦紅 信雄

山裾のふわりと揺れる吾亦紅
ひよろひよると風に吹かれて吾亦紅

山歩きテレビ画面は秋の色
坂道をあゆむ故郷曼殊沙華 故郷の坂道染むる曼殊沙華

咲き萎むひと日ひと日の芙蓉なり かな
秋暑し固有名詞が出てこない

稲妻や闇夜に光るおそろしさ はなはだし

参加者 成子・洋子・育子・静代・恵美子・ミチ子・弘子・今日子
信雄・豊隆・利太郎・粹歩・武彦・久登

投句 宣子 欠席 園子
次回予定

十一月十四日(木) 千葉神社 九時集合 十時活動センター
十二月十二日(木) 登渡神社 九時集合 十時参集殿 茶話会